

前作としてブロッコリーを作付けすることによるナス半身萎凋病の発病抑制

ナス半身萎凋病の発生は、ナスを定植する前にブロッコリーを作付けすることによって減らすことができる

研究開発の背景

- ・ 土壌病害であるナス半身萎凋病 (*Verticillium dahliae*) は全国的に発生しており、甚大な被害を引き起こしている。
- ・ 本病害の防除は土壌くん蒸が有効であるが、環境への負荷が懸念されるとともに、生産者の高齢化に伴って作業労力も大きな負担である。
- ・ 土壌くん蒸に代わり、環境負荷が少なく、持続的なナス半身萎凋病の管理技術が求められている。

研究成果の内容

環境負荷の少ない持続的なナス半身萎凋病管理技術



①発病圃場

※発病株率30%が導入の目安



②ブロッコリー定植

※秋冬栽培



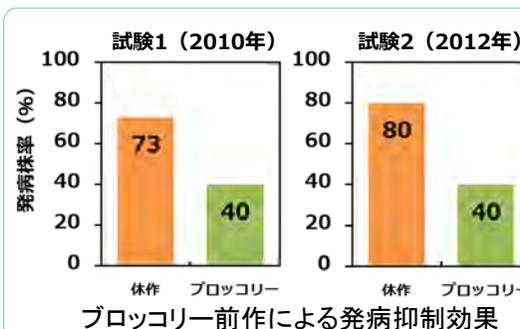
③栽培・収穫



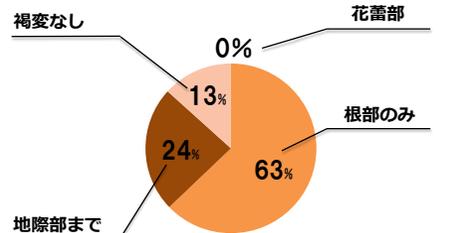
④残渣のすきこみ

発病圃場にブロッコリーを前作してすきこみする。

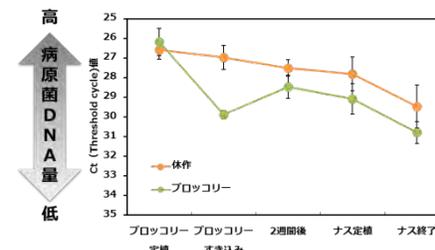
導入メリット



ブロッコリー前作で発病は抑制

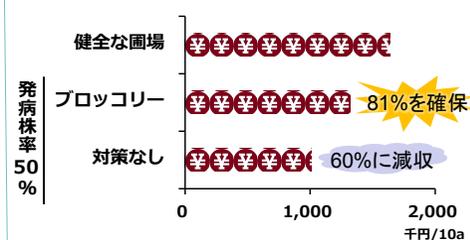


※花蕾部まで褐変しなければ収穫可能
発病圃場におけるブロッコリー褐変程度
発病圃場でもブロッコリーは収穫可能



ブロッコリーおよびナス栽培期間中の病原菌DNA量の推移

ブロッコリーの栽培で病原菌減少



ブロッコリー前作した場合のナス粗収益
ブロッコリー前作で健全圃場の81%を確保

期待される効果

- ・ ブロッコリーを補完作物とするナスの安定的かつ持続的な栽培体系の構築。
- ・ 土壌くん蒸を回避する環境保全型農業の促進。

導入をオススメする対象
全国のナス生産者・生産団体